

播磨まちかどニュース

With いなみ野学園

瓦版



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 70 ◆配信日：令和6年3月1日◆

1. マンドリンとギターの調べ (いなみ野学園研究生の講座から)
2. 新焼入窯火入れ式 (いなみ野学園陶芸学科)



3学期早々の1月11日(木)に、いなみ野学園で行われた2つの行事を紹介しましょう。

一つは、午前中、いなみ野学園研究生の授業の一環として開催された「ら・ロマン」による演奏。もう一つは、午後から、いなみ野学園陶芸学科で行われた「火入れ式」の様です。

◆マンドリンとギターの調べ「ら・ロマン」 (いなみ野学園研究生の講座から)



午前の「ら・ロマン」は、ギターの濱野憲二

さんとマンドリンの黒石真知子さん、お二人の「ギター・マンドリン、コンサート」でした。

お二人が奏でる演奏に合わせて、研究生のみなさんも大きな声で楽しそうに歌っていました。それもそのはず、演奏の曲は高齢者の私たちに馴染のある曲ばかり揃えてくれたからです。よく知った歌は口ずさみやすく、またとても懐かしい気持ちで、心地よく歌うことができました。「津軽海峡冬景色」から始まって、「大阪しぐれ」、「大阪ラブソディー」、「見上げてごらん夜の星を」などと、こうした曲を披露してくれました。

ところで、「ら・ロマン」は、普段から加古川市内の施設訪問など積極的に活動をされています。実は、その後の1月14日(日)に、加古川市民会館での「新春ふれあいコンサート」にも出演されていました。



後半では、「昂(すばる)」、「人生いろいろ」、「東京ブギウギ」など。研究生のみなさんも声を揃えて大きな声で歌っていました。



最後にみなさん、こんなシーンもありましたよ。カッコよく決めて、大きな拍手が沸きました。「浪花恋しぐれ」のセリフを森本国昭さんが語り、最後の「酒や酒や、酒持ってこい」では大盛り上がりでした。

歌はいいですね。それも大勢で一緒に歌うと一層気持ちよく歌えます。「ら・ロマン」の演奏で心地のいいひとときを過ごすことができ、3学期のスタートを切る楽しい講座となりました。

◆新焼入窯火入れ式 (いなみ野学園陶芸学科)



続いて、午後の「火入れ式」を紹介しましょう。陶芸棟に新しく窯(かま)が設置されることになり、それに伴う「火入れ式」が行われました。高見英明技術指導委員の「開式のことば」で始まり、池澤榮次郎学科主任による「安全祈願」に併せて、全員で祈願を行いました。その後は、新窯の「火入れ式」です。電気窯「いなみ野」の「火入れ」は、林省吾生きがい創造協会理事長兼いなみ野学園長が行いました。電源がオンに、火入れOK。続いて、灯油窯「せと」の「火入れ」は、林田幹夫技術指導員と石井敏一技術指導員によって行われました。



「火入れ式」を終えた後、学園長のあいさつがあり、「新しい窯と上手につき合い、いい作品をどんどん作ってってください」と話されました。その後は、榊原技術指導員の謝辞で、今回の「新焼成窯火入れ式」を滞りなく終えることが出来ました。



林学園長



池澤学科主任



榊原技術指導員



新しい窯ができて、一層、陶芸学科のみなさんも「がんばろう」という気持ちになったことでしょう。いなみ野学園には数多くの窯があり、これだけ揃うところはそうないだろうと思います。恵まれた環境にある陶芸学科です。どうぞ陶芸に興味のある方は学園に入られて、一緒に土と格闘しませんか。

(ナレーション：吉川 千代子)

1. エベレスト街道に挑戦！ (宮本博道さん 文化学科3年)

2. 大学院修了レポート発表会から (篠原英昭さん 大学院2年)



3学期の始め、いなみ野学園大講堂で行われた宮本博道さんの「体験発表」と、2月初めの大学院2年生の「修了レポート」発表の様子を紹介します。

◆エベレスト街道に挑戦！

(宮本博道さん 文化学科3年)

始めは宮本さんの「体験発表」から。去年、実際にエベレストへ行っての体験談でしたから、聴く側にとってはとてもインパクトのあるものでした。みなさんも真剣に聴いていましたから。



去年の11月半ばから12月始めにかけて、エベレスト街道を歩かれた宮本さん。バスや電車があるわけではなく、歩くしかない。毎日6～7時間を歩き続けて丸一週間。高度順応のための期間を入れると10日はかかる。それも5,000mを超える酸素も薄いところの街道を、ただひたすら歩くのである。そんな過酷な経験をされてきた方の話なので、聴く側のみなさんも圧倒されながら耳を澄ませていました。



発表後に、直接、ご本人にいくつかの質問をしてみました。

★「5000mを超える、そんな過酷な山へ行く魅力は何でしょうか？」

(宮本さん)「できるかどうか分からない、ハードルの高いところへの挑戦でしょうか」

マイナス5度からマイナス10度もの寒い環境で、勿論、風呂・シャワー、電気もない、食べる魚も野菜もない、そんな過酷な中をカラマサールのキャンプ場まで行かねばならぬとは・・・。

★「その道中はどんな気持ちで歩いていましたか？」

(宮本さん)「楽しいですよ。肉体的にも精神的にも限界に挑む楽しさですか。牛や馬が荷を運ぶ険しい山道を同じように歩いていく楽しさ。そこで出会うネパールの人たち・子どもたちとの触れ合いも、とてもいいです。」



リーダーも体力の限界を感じるほどの大変な行程、リタイアされたのは賢明でしたね。三浦雄一郎さんが100歳でエベレスト街道を歩くことが夢だと、三浦さんの気概・強い思いに宮本さんご自身も「強く生きていきたい」と言われていました。

★「ご自身の今後の活動については？」

(宮本さん)「山歩きは一定の区切りがついたので、次は、熊野街道とか中山道を歩いてみ

たいです。」

★「最後に、そのエネルギーはどこからきているのですか？」

（宮本さん）「好きだからですかね。年に一度の『100キロウルトラウォーク』も10年続けてきた。こうしたイベントに参加すること、また、訪れた所での名所旧跡を訪問すること、その土地の美味しい食事をいただくこと、最後に温泉に浸かって疲れを癒すこと。これらが楽しみですね。」

「追い続ければ夢は叶う」、正にそれを実証された今回の宮本さんのエベレスト街道挑戦。70を半ばにして、今もその熱意は衰えず、さらにその上に行く三浦雄一郎さんを目標にがんばる宮本さん。スゴイ方だとつくづく思います。「人は歳ではない」のだと、また、「夢は叶う」のだと言うことも。私たちも「歳だから」ではなく、「歳なんて」と、そんな気持ちを持ちたいものと思いますね。宮本さんのパワーを見習わねばと思いました。

◆大学院修了レポート発表会から （篠原英昭さん 大学院2年）



続いて、令和6年2月2日（金）・4日（日）の両日行われたいなみ野学園大学院2年生の「修了レポート発表」の様、その一部をお伝えします。

2年生を代表して、兼本ゼミの篠原英昭さんの発表「いなみ野の神さん（住吉神社編）～神社を通して郷土を振り返る～」から。



『源氏物語』の光源氏が須磨へ。その須磨は海辺の侘しい所で、嵐にも襲われる難儀に遭い、死の瀬戸際に陥った時、住吉の神が現れて源氏を導き、そこから明石に脱出をさせたこと。その話のモチーフとなったのが、景行天皇と印南別嬢（いんなみわきのいらつめ）との「妻どい」。景行天皇がはるばる大和から播磨までやってきて、印南別嬢と出会い、お二人に日本武尊（やまとたける）が生まれる。そこで播磨の地に大和政権の基盤ができた。それが光源氏の話の下敷きとなったと、発表されていました。



各人が様々なテーマで研究してきたことを7分間と言う限られた時間内で報告した今回の「修了レポート発表」。これを迎えるまでに何度も練習をしてきたので、ほとんど時間内で発表されていました。発表内容もみな、聴きごたえのあるものばかりでした。

みなさん、やりきった達成感と満足感ととても晴れやかな表情でした。本当に2年間、ご苦労様でした。素晴らしい発表会でした。（ナレーション：吉川 千代子）

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html



＜編集・発行＞

いなみ野学園 ビデオ制作委員会（いなみ野学園大学院講座・研究生） ☎079-424-3342